

令和2年度 音楽科実践・研究計画

部 員	○大山光子, 小林葉子
-----	-------------

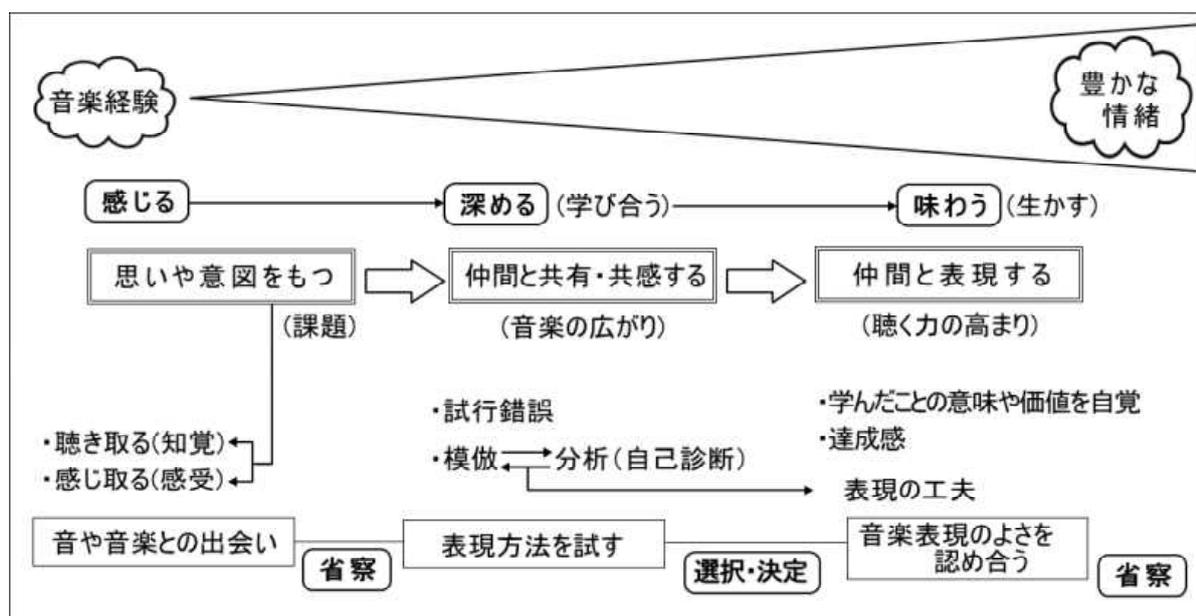
研究テーマ <b style="text-align: center;">音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び

1 研究テーマについて

子どもたちの周りには様々な音や音楽があふれている。私たちは、音や音楽に出会ったとき、「楽しい曲だな」「きれいな音色だな」「悲しいメロディ」など何かを感じるものである。だからこそ、自分が感じていたことが「ああ、このリズムがあるせいだったのか」「この旋律が鳴っているからなんだ」などと音楽的な見方・考え方と結び付けて分かったときの心の動きや「すごいなあ」という感動は、音楽の学びの中でとても重要なことである。本校音楽科では、子どもたちが将来にわたって生活や社会の中の音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。2年次の実践では、子どもたちが、音楽の省察の場では、音楽を形づくっている要素に着目し、試行錯誤を繰り返し、よりよいものを目指し修正していく姿が見られた。子どもたちが仲間と一緒に音楽活動をしながら、聴き合うことに焦点を当てることで、互いにフィードバックし合うという成果が得られた。その一方で、自分なりの思いや意図をはっきりともたないまま活動していく様子も見られた。そこで、音楽経験から得られる感動を共有し、仲間との表現を楽しむ姿を期待して、3年次も「音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び」の研究テーマを継続し、授業づくりを行っていく。

音楽科における「自律した学習者」とは、自分の思いと知識や技能の習得を往還させながら、歌ったり演奏したり、鑑賞したり音楽づくりをしたりするなど、音を通して表現できる子どもと捉える。また、「学びをつなぐ」を、それまでの音楽経験をもとに、音楽を形づくっている要素とその働きの視点に注目して楽曲を表現したり、鑑賞したり、音楽づくりをしたりできることと捉える。

音楽科における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように考える。



また、音楽科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- ・表現や鑑賞に必要な知識を更新し、新たな技能を習得しながら、生活の中に音楽を生かそうとする姿
- ・自分の思いをもち、表現したり鑑賞したりする中で、仲間と共有・共感するなどの関わりを大切にする姿
- ・知性と感性の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿

2 研究の重点

(1) 試行錯誤を通して効果的な表現方法を試すための手立ての工夫

～少人数によるアンサンブル活動の活用～

子どもたちが音楽活動を行う中で、それまでの音楽経験をもとに自分の力量に気付くことにより、様々な表現方法を試すことができる。試行錯誤を繰り返す活動では、自分とは異なる他の感じ方を知ったり、音楽の魅力に気付いたりすることができ、学びを深めることのできる場面である。子どもたちの学びは、教師や模範演奏などの「模倣」に始まり、試行錯誤をする中で「模倣」と「分析」（自己診断）との行き来があり、表現の工夫を見いだすことから、音楽表現のよさを味わうことができると考える。様々な表現方法には、曲の感じを言葉で表したり、体の動きで表したりすることも含まれており、比較したり関連付けたりすることで理解し学び合うことができる。特に、音楽活動では、少人数によるアンサンブル活動を意図的に取り入れることで、自分の役割を意識して表現するようになり、技能力の向上にもつながると期待できる。

(2) 音楽的な「見方・考え方」を働かせて、互いに聴き合うことで「聴く力」を高める省察の工夫

～聴く耳を育てる～

聴き取り、感じることのできる聴く耳を育てていくために、「演奏する役」にも「聴き役」にもなり、フィードバックする協働的な省察場面を意図的に設ける。その際、きれいな音色や正確なリズムなど音楽的な要素に視点をしぼり、繰り返し試しながら互いに聴き合う活動を取り入れ、仲間と表現することを通して「聴く力」を高めていきたい。また、自分たちの演奏を録音・録画し客観的に聴く活動を設定することによって、よりよい音楽表現をするためのヒントを見いだすことができると考える。音楽的な要素に迫って聴き合うことは、互いの音楽表現のよさを認め合うことができる場面であり、豊かな感性を育むためには重要である。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会（中止） ・附属小学校公開研究協議会（中止）	・実践・研究計画の確認 ・授業づくり、授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
2 学期	・校内研究会 ・教科部会	・実践・研究のまとめ ・実践・研究の修正
3 学期	・部内研修会 ・教科部会	・授業づくり、授業力向上 ・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正